

新刊紹介



**建築家
善兵衛旅日記**
遊んで学んで考える三十一話

著者：小倉善明
発行：株式会社 日刊建設通信新聞社
仕様：四六判、272ページ
定価：1,600円（税別）

建築設計界に身を置く人で、筆者の小倉善明氏を知らぬ人はいないであろう。小倉氏は(株)日建設に在職中、「新宿NSビル」「聖路加国際病院再開発事業」「JR東日本本社ビル」などを設計した。

日建設退職後、設計のみならず(一社)日本建築学会副会長、(公社)日本建築家協会会長や、世界110カ国から5,000人以上の建築家が集まった2011 UIA東京大会の日本組織委員会会長など、現役のときから現在まで約半世紀にわたってわが国の建築界で幅広く活躍されている。

その小倉氏が「小倉善兵衛」と称し、旅に、釣りに、酒にと、まじめに遊びに取り組んでいることを、本書をとおして知った。そして、作家である故・遠藤周作のことが頭のなかに思い浮かんだ。遠藤周作についてはご存じの方も多いと思うが、『海と毒薬』『沈黙』（第2

回谷崎潤一郎賞受賞）『深い河』などの文学作品がよく知られている。一方、東京・町田市玉川学園に転居した折、自宅を「狐狸庵」、自らを風流な世捨て人「狐狸庵山人」と称した。毎日をひたすらグータラに徹して過ごしているが、ひとたび好奇心が疼くと珍騒動を起こすなど、そのグータラとユーモアを織り交ぜた日々のお話『狐狸庵閑話』『ぐうたら社会学』などの極上(?)のエッセイ集として出版されているので、手にした方もいるのではないだろうか。

本書には、喜寿を迎えてからの善兵衛さんが、奥様との海外旅行や一人旅での出来事、釣り、料理などの趣味の世界、少年時代の思い出、年齢に伴い老いと向き合う日常などを題材に、狐狸庵山人に負けないユーモアを織り交ぜた語り口で書き溜めた、31話の物語を掲載している。